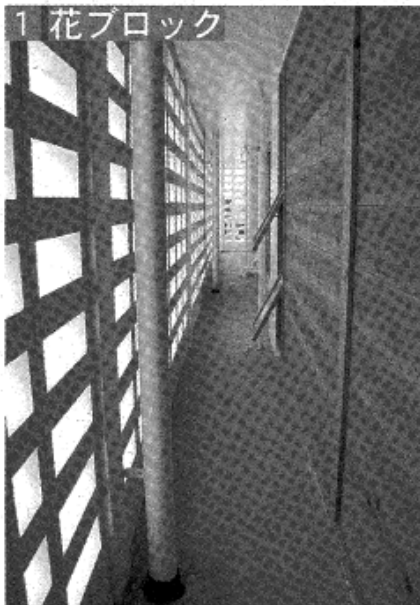


05 評価してほしい工夫

1 花ブロック



2 白色塗料



3 屋根通気ブロック

① 通路に設けた花ブロック。風を通しづつ陰をもたらし、壁や窓に日差しが当たるのを防ぐ

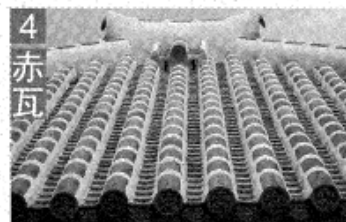
② 白色塗料を塗った住宅。日差しを反射しやすいので、建物の温度上昇を緩和する

③ 屋根通気ブロック。屋根への直射日光を防ぎ、通気層で遮熱する

④ 沖縄の景観に欠かせない赤瓦。しゅくいや通気層による遮熱効果が期待される

⑤ 屋上緑化は、植物の蒸散作用で直下階の室内温度を下げる

(①・②・③はNPO蒸暑地域住まいの研究会、④は伊是名ブロック工業、⑤はバス建築研究室がそれぞれ提供)



4 赤瓦

そのほかにも

・隣戸の影響

ひさしを延ばしにくい住宅密集地では、マンションなど隣の建物が日差しを遮ってくれることもある

・西側に居室を設けない配置計画

西日の影響を受けやすい西側には、居室ではなく、通路や水回りを配置

・屋敷林

建物に陰をもたらし、葉っぱの蒸散作用で風の温度を下げる

・開口部に面した庭の緑化

地面に反射して室内に入ってくる空気の熱を和らげる



5 屋上緑化

中ほど、省エネ基準の運用の中でこれらの工夫を生かす方法が検討されている。

現在、省エネ基準の運用の中でこれらの工夫を生かす方法が検討されている。

◆基準クリア困難の要因
沖縄の住宅ではこれまで、涼しく過ごすために多くの工夫が施されてきた。しかし、そのほとんどが現在提示されている建築物省エネ法の基準では評価されていない。例えば「花ブロック」は外壁とは認められず、ないものとして判断される。そのため、実際には日差しを遮ることができていても、窓や壁に直射日光が当たるものとして計算する。効果を実感していても評価されない工夫は他にも、日差しを反射しやすい「白色塗料」、通気層で遮熱する「屋根通気ブロック」、植物の蒸散作用を利用する「屋上緑化」などさまざま。隣の建物が日差しを遮るといった周囲の状況を踏まえた設計や、西日の影響を受けやすい西側には居室を設けない配置計画も数値化されない。

NPO蒸暑地域住まいの研究会の松田まり子理事長は「これらが評価に含まれないことが、鉄筋コンクリート造での基準達成の難しさにつながっている。設計の工夫がなくなるのではないか」と危惧する。

現在、省エネ基準の運用の中でこれらの工夫を生かす方法が検討されている。